

◀ 露披御設開話電 ▶

今般電話架設開通仕候間是非御利用の上倍舊の御愛顧御引立の程奉懇願候

番 號	町 名	氏 名
六四〇	田 町	關内油槽所
六四五	二丁目裏	福元石橋彦七
六四六	鍛冶町	鈴木多利吉
六五八	堤内	馬豚肉問屋 大塚武雄
六六〇	五丁目	酒井亥之次郎
七〇七	鎌田町	根本精米所 根本忠吉
六三〇	長橋町	常磐毎日新聞社

町平 町屋紺 吉田眼科醫院

美味と經濟の 西洋御料理
 『御入浴も御隨意ですから御散歩の折には是非御立寄を願ひます』
 牛肉 洋食 氷石川亭
 平町田町電話四十三番

西村屋藥舖

國産ミルルク粉
 おしどり印(一ポンド入) 粉ミルク(半ポンド入) コーヒー入 半ポンド入 コ、ア入 半ポンド入
 日本製乳會社が多年製造して居りましたが愈々豊富に製造品優良なる舶來品に優るもので弊舖の確信する處一度御試用を乞ふ
 平町二丁目



刊夕日八十月八

定一部金貳錢 廣五號十三 休日(日)祭日(祝日) 印刷所 常磐毎日新聞社 電話六三〇番

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡鍛冶町十一番地 印刷所 本社専屬印刷社

新聞に貞操なし (七) 山本正巳

私は新聞なるものが毎日犯してゐる有形無形の民衆への胃徳や威壓と新聞そのもの、有する徳用性を利用してする所謂公共的奉仕とかを思ひ合すときあのベルクレスから射殺される、いまはしいいかもごこかに畸型としてのおかしみをもつた半人半馬の姿を想ひ起させられる、おかしさはあるが聊の美感を伴はぬ不自然な醜惡なものだ又は高利貸が似非信心から立ん坊に施

捨ててゐる圖を見るやうな悪感を抱かせられる
 ◆ 之は私の偽らぬ實感である、而して誰しもこの難攻不落の資本主義新聞の悪徳を思はするとき同様不快に襲はれるであらう。
 ◆ 私は思ふ。諸種事件の報道は云ふ迄もなく新聞の重要義務の一である、之れに對し一定の解釋の必要も認めらる然しこの解釋の如何が社會に非常な影響を興へて行きつゝあるではないか、詳しく言へば或事件の報道を得るとする先づこの事件の眞偽如何、次に眞なりと

せば果して公衆を前に之を問題とすべきものか否か、問題とするとせばその發表の態度は如何稱讚的にか、問責的にか、或は無批判的にか、その紙面に於ける發表箇所は如何、欄外に小見出を付けてか、或は三面上部に仰々しく出すか、假名にすべきか等々
 ◆ 是等の取捨選定に當つては能ふべくは人生社會に對して眞面目なる活眼を有する人が數名又は數十名責任を連帶する様にしてはじめて一新聞社に人格的權威が認められる

畜力 朝鮮牛直輸入
 大王 交換又ハ分讓需求
 平町田町 三二二三屋
 電話三二二三番



モトロー 電氣機械器具各種材料販賣 電燈電力工事設計並ニ請負 製作ハ日立製作所
 販賣ハ磐城工業商會 株式會社日立製作所特約店 東京電氣株式會社特約店
 常磐線平町四丁目 電話一八番 磐城工業商會 中村佐治 助

を召し上つて下さう
 「うなごん」は卅五錢と
 五十錢とです
 召し上がつて初めて當家の勉強振りを賞めて戴けると確信します
 うなごん
 そば
 つや
 平町長橋町

本紙五百號紀念懸賞十字語
斷判語字十
—(案答)—

Table with 10 columns and 10 rows of characters for a word puzzle. Columns are labeled with numbers 1-10 and rows with letters H, I, B, H, I, B, H, I, B, H. The grid contains various kanji characters.

本紙五百號紀念懸賞十字語
判斷は各方面より非常なる
興味を以つて迎えられ

應募數四百五十八通
正解者三百九十二通
に達する盛況にて其審査は
立案者の植頭憲太郎君に本
社から依頼した處正解者が
豫想以上に多かつた爲め抽
籤を以つて左記二十名の當
選者を決定しました尙ほ賞
品は追つてお届け致します

- 當選者氏名
内郷村 蘭部順平
八幡小路 渡邊 啓
南 町 清野清子
長橋町 二口須美子
道匠小路 大和田静孝
南 町 眞木光邦
田 町 大久保文太郎
長橋町 高木末松
長橋町 伏見文彦
田 町 市井三郎
長橋町 安藤次平
北目町 西潟元三
東京市 鹽屋東京支店
五丁目 大樂トシ子
一丁目 島海榮一
四丁目 山本夢松
鐵道官舎 鈴木宗吉

石城海岸を
ハ進し來る

自働自轉車
平町通過は廿一日夜
自働自轉車の連續運轉の記
録がわが國にまだ一つも作
られてないのを遺憾とし會
てジュニア一庭球選手とし
て活動した澤地政二(三)と
木村實(三)の兩君が來る廿
一日の關出發

平署長 櫻 村 慶 氏
今度の雨で洪水は來ると
覺悟した、平署に赴任後
最初の経験であるから大
過なからん事を期して準
備に努めた、今日になつ
て見れば一種の張り合へ
抜けの感がある、警察事
故の總べては張り合へ抜
けの感あつてこそ萬全を
期する事が出来る、即ち
未然に防止する事が大切
であるからだ

一日一言
平署長 櫻 村 慶 氏
今度の雨で洪水は來ると
覺悟した、平署に赴任後
最初の経験であるから大
過なからん事を期して準
備に努めた、今日になつ
て見れば一種の張り合へ
抜けの感がある、警察事
故の總べては張り合へ抜
けの感あつてこそ萬全を
期する事が出来る、即ち
未然に防止する事が大切
であるからだ

秋の洋服
の生地と
しては例
年通りウ
ーステツ
ド、ホー
ムスパン、スコッチ、サイ
ジなどですが型の上と色合
柄にはいろいろ新しい
傾向が 見えて來ま
した型は夏頃から流行して
來たゆるやかなのが引つゞ
き流行です、即ち上衣は胴
まわりも廣くなり丈も長目
になつて腰が出ない様にな
りました、さうして襟の
へりがまた大きく前ボタン
も二つと三つが相半ばする
のが

喜ばれ ます従つて
ズボンも上衣に釣り合つて
太くなり裾の折り返しがど
れて丈が長くなりました。
次に柄は黒ずんだものが廢
りしま柄の大きな杉あや風
の生地が流行の先頭に立つ
て居ります。色は茶と鼠系
統のものが好まれます
平町人事
△出生
△南町 山村留七氏二男光司
△婚姻
伊達郡桑折折齊藤マサ(二四)
△田町一 果實商藤居勝武氏(二四)
伊達郡桑折折齊藤マサ(二四)

町では來月二十より豫備調
査を行ふ筈だが現在の調査
に依ると人口は二萬四千五
百三十七である
町新設電話
六二八平第三小學校、六
二九平辯護士會長新田日
善次郎、六三〇常磐毎日
新聞社、六三一中外商業
新聞社、六三二憲政會福
島支部石城部會事務所、六
六三三色川勝三郎、六三
四有馬公一、六三三三井
廣吉、六三六合資會社大
關順義、六三七松崎吉三
郎、六三八佐川辰太郎、六
六三九松本定造、六四〇
關内直一、六四一緑川廣
忠、六四二山本モン、六
四三大谷ヒデ、六四四狩
谷周平、六四五石橋彦七

電話開通
番 六三〇番
既に通話が許されてある
のですから急用には電話
を御利用願ひます
常磐毎日新聞社
川崎 文 治

一冊の代金
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由讀める
川崎文庫
電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

青森間 千百三十八

哩八分長距離連續運轉を決
行する事になつた日程は廿
日午前二時下の關出發廿一
日正午東京同日夕刻頃平町
を経て仙台に向ひ翌廿二日
の午後五時青森着の
豫定で 搭乗者の取
持間を下の關大阪間東京仙
臺間を木村君とし大阪東京
間仙臺青森間を澤地君とし
たから石城の海岸を越進し
來る雄者は木村君である、

今回の被害額は
土木工事の十萬圓

先づ以て上の口
漸く天候も今日になつては
持ち直したらしい模様であ
るが石城郡に於ける今回の
火災に依る土木工事の被害
額は今迄の調査に依ると六
萬二千圓との事であるが今
後の調査が進めば十萬圓を
越ゆるものと見られて居る
先づ第一の難工事は山田村
地内の鮫川堤防欠潰で此他
は國縣道の崩潰、橋梁の流
失等枚舉に暇ないが何れも

農作物被害
可成りにある

平町にて今回の水害を蒙つ
た農作物は三割以上五割未
滿減收のものは稲田廿町歩
此金額五千百六十圓で三割
從來茶は單に興奮飲料との
み思はれてゐたのですが最
近日本の緑茶の上等品の中
にはヱイタミンのCを含有
する事が判明し世界的に其
効用を認めらるゝに至つた
のです、因みに冷し茶の製
法は至極簡單で先づ少量な
ら土瓶か湯沸しに茶をせん
じて其まゝ冷しておけばよ



家庭欄

殺菌力ある冷し茶
夏季における最も安全とし
かも殺菌力を有する簡單な
飲料水は冷し茶であります

交互に 汽車中で休

息し晝夜兼行で全行程を僅
か六十時間で突破する計劃
である従前とも單に本州
を從斷するだけならば一二
先例がないではないが何れ
も一週間以上を費した物見
遊山的 なもので今
回の如き連續運動は初めて
のこと成功の暁には立派
な世界的記録が出来るわけ
である

青年運動 技

六日平町にて
石城郡聯合青年團主催にて
來月六日午前八時より平第
一小學校に於て陸上運動會
を催す由であるが参加者資
格は廿五歳以下の青年に限
られて居る
〇〇〇〇〇
ヒロイモノ

△石城郡神谷村鈴木サダ
子は十八日平町三丁目道
路にて現金九圓五十錢在
中の二つ折財布△平町月
見町古河兼松氏は十一日
同町にて一圓七八錢在
中の赤皮製レリス△平町
白銀町山澤フサ子は十日
南町にて銀側懷中時計△
田町阿部富八氏は四倉海
水浴場にて現金一圓二十
五錢△神谷村高田壽造氏
は九日立町にて現金一圓
五十五錢在中の裏口△
丁目井原幸助氏は九日同
町にて二圓六十三錢在中
の三つ折財布を夫々獲得
此程平署に届出た

いのです。また多量に製す
る場合は朝お釜に湯を沸騰
させ適當の茶を入れて二分
間程したら下ろして土瓶な
り湯沸しに茶がらの入らぬや
うにして入れ、水の中若し
くは井戸につるしておいて
來客の時などこれに少量の
水を入れ砂糖を加へて出し
ます